
設定上のまおうさま！？

毎日頑張る

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

設定上のまおうさま！？

【Nコード】

N8997Z

【作者名】

毎日頑張る

【あらすじ】

魔王が正義で、王族が悪？

めんどくさがりで怠け者の魔王の日常と非日常をご紹介します！

(初投稿なので、誤字脱字あったら教えてください)

初めの「あいさつ」(前書き)

誤字脱字あったら教えてください。

初めの「あいさつ」

薄暗い、広い部屋の中にその男はいた。その部屋の奥、少し高くなっている場所に置いてある椅子にその男はだるそうに座っていた。

その時、重そうな甲冑かっちゅうに身を固めた兵士が走ってきた。

「魔王様！ 1分前に王国から、2人勇者が旅立ちました！」

「どうでもいい」

「さらに、59秒前に片方が門の前にやってきました」

「あっそ」

「そして今、魔王様に会いたがっております」

「がんば……。って速過ぎでしょ！ しかも門番は59秒何してた！？」

「世間話をしていたそうです」

「門番、のんきすぎ！」

「どういたしましょう」

「……。闇の勇者か？」

「そのようです」

「つれてこい」

男、いや魔王がそういうと兵士は出て行った。

「リリイ！」

「なんでしょ〜か、魔王様？」

青い髪の少女が妙に間延びした口調で言った。その少女はリリイといい髪がウエーブしていて、16歳程度に見える。100人に聞くと90人は美少女と答えるだろう。

「客がくる。お茶の用意をしろ」

「わかりました〜」

そういつて走っていくリリイ。途中転んだのは「ご愛嬌」。

「ラル」

【なんですか、ややこしい仕事は押し付けないでくださいな。青い

鳥を見つけると言われた時なんて大変だったんですよ！】

天井のスピーカーから声が出る。

「だれがいつそんなこと言ったんだい？ とにかくお客様用のあれを出してくれ」

【突っ込み所を逃した】ラルは心の中で思った。

「さあ、忙しくなるぞお」

魔王はうれしそうに行った。

初めの「あいさつ」(後書き)

とりあえず毎日1話ずつ出していきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8997z/>

設定上のまおうさま！？

2011年12月28日08時47分発行